

安全衛生

方針

従業員一人ひとりの安全と安心、健康を守る。

目標

1. 休業災害・自責交通事故・公衆災害ゼロの達成。
2. 時間外労働上限規制の厳守。
3. 一人ひとつの生活習慣改善の実践で有所見者を低減。

【取り組み項目】

目標会議

受注した工事に対して【三方良し】の理念で、以下の8つの視点について目標をすり合わせる。

- ① 地域住民の視点(利用住民のニーズ)
- ② 一現場一奉仕
(地域住民とのコミュニケーション)
- ③ 発注者の視点(高品質・工期厳守・無災害等)
- ④ 品質の視点(規格値内の施工、見栄え等)
- ⑤ 安全の視点(労働災害・交通事故・公衆災害)
- ⑥ 衛生・環境の視点(健康管理・産業廃棄物等)
- ⑦ 人材の視点(育成・成長)
- ⑧ 会社成長の視点
(業績UP・経営目標の達成)

※順守すべき法令等の確認

[ISO業務マニュアル6.6]

工事規模に応じて目標会議を4区分し検討する。
工事完了後、目標に対しての反省・評価を行い、今後の類似工事の取り組みの参考として活用。

動重高変

作業所において「動くもの」「重いもの」「高い場所」「変化する時」の災害発生リスクを洗い出し立案した対策内容を掲示物にまとめ、意識づけ。



目の上・足の下

架空線・埋設物との接触・損傷等の災害発生防止の意識づけ。



安全グッとフリーズ

全国安全週間に実施。
テーマにちなんだ「グッとフリーズ」を募集し審査の上で最優秀作品を表彰し展開。



幹部パトロール

店社幹部が毎月交替で全現場パトロールを実施し、安衛品環計画の推進状況を確認、経営者・他部署の目線でリスクを抽出。



KN運動「心と心(K)のネットワーク(N)」

作業終了後に現場状況や気になる点などを関係者が共有する事で施工と安全面のトラブルリスクを減らす。



TS運動「点検(T)清掃(S)」

原則毎週末に重機車両の点検・清掃を実施し始業前点検では発見できない不良箇所等を早期発見しトラブル予防。

ダブルロック式始業前点検

運転・使用責任者による始業前点検と職長のダブルチェック体制による重機車両の点検。

リスクアセスメント式ダブルロックKY

朝礼にて作業内容・作業調整・手順の確認後、班ごとに分かれて当日の作業手順毎に危険のポイントを具体的に書き出し、リスク度を評価。リスク3以上は複数の対策(災害を発生させない対策・災害発生時重篤度を軽減させる対策)をたてる。対策後のリスク度を再評価しチーム行動目標を決定・唱和。



か行点検

【か=観察】【き=気づき】【く=首傾げ】
【け=計画】【こ=行動】の5段階で持ち場の課題やリスクを見つけ、改善していく取り組み。



市民の目線活動

地域住民の目線で看板や仮設備を設置し維持する。

血圧測定の独自基準

血圧計の設置と測定実施。
高血圧(最高150mmHg以上)及び低血圧(最高95mmHg以下)者の高所作業や建設機械運転を配慮すること。

良視(よし)

作業のリスクと対策を「見える化」「高視認化」する。

「私の提案」制度

持ち場をより安全に効率的になど、業務を改善した(する)発想と事例を社内で共有し全社をレベルアップする。



寿Good job



歯止め・タイヤ切り

車両駐車時は平地でも逸走防止のために「歯止め」を設置し、斜路に駐車する場合は更に「タイヤ切り」を実施し、もし歯止めを乗り越えた場合でも車両が安全側に進むようにする。

平行・直角・垂直・水平

仮設備の配置や資機材の置き方を平行・直角・垂直・水平にこだわる事で、安全性・効率化・見た目の向上。

ゆびさし

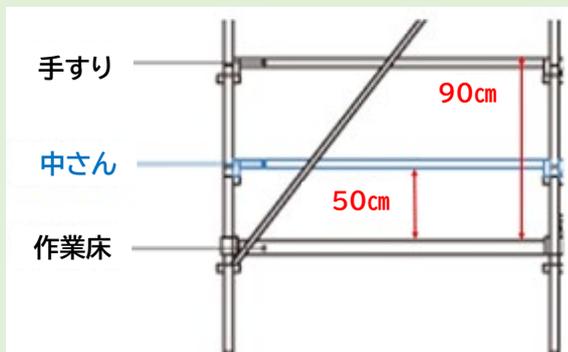
作業や業務のリスク箇所において、「ゆびさし」で確認しヒューマンエラーを防止する。

ワンシート作業手順書

作業手順書のない作業を排除するため、突発作業や非常作業に作成する簡易的作業手順書。

足場等の手摺の独自設置基準

墜落防止のため、手摺高をパイプ上端で90cm、作業床～中さんの隙間は50cmとする。



安衛品環室通知

安全・衛生・ISO・環境・地域貢献に係る法令改正や様々な情報を安衛品環室から全社員にメールで配信。「伝えるべき情報」をタイムリーに情報共有する。

梯子兼脚立の使用基準

梯子兼脚立は、梯子状態での使用禁止。



親網・セーフティロックの高さの独自設置基準

落下時の身体へのダメージ低減のため、フック位置は1.5m以上確保する。

